

# 手取川流域農業水利事業 上郷用水路(宮竹サイホン) 改修その1工事

本地区は石川県最大の河川である手取川の扇状地に位置し、その下流域では水稻を中心とした農業が営まれています。しかしながら農業水利施設は老朽化が進んでいることから、農業用水の安定供給を図る為の事業が進められています。

本工事はその一環として、手取川を横断する幹線用水路のサイホン区間において、既存のパイプに新しい鋼管パイプを挿入する「パイプ・イン・パイプ工法」を用いた改修を行なうものです。

当該サイホンは河川区域内に位置し、施工は非出水期に限られ、かつ冬季用水の確保のため、年内完成させる必要があります。その為に鋼管運搬方法の工夫などを行ない、施工性を高める事で工期短縮を目指しています。また既存パイプ内での作業が大半を占める為、老朽化の進行程度を把握する事が、安全に施工する為の重要なポイントです。そこで既存パイプに自動計測装置を取り付け、鋼管のひずみなどの挙動を監視しながら工事を進めております。

11月初旬時点で新設鋼管パイプの搬入が始まりました。年内の幹線用水路通水に向けて、「創意工夫の積み重ね 命の水を未来へつなぐ」という当作業所のスローガンのもと、無事故・無災害で高品質な施工を心掛けて参ります。



## 監督職員からのエール

本工事は手取川の右岸側で合口取水した用水を、左岸側の受益地約2,300haに送水するための重要な施設の機能回復を図る工事です。施設は手取川を横断する逆サイホンであり、造成後、既に約50年を経過しているため老朽化の状況など、施設の状態を的確に把握し工事の安全を確保した施工が必要となります。サイホン内を空にすることによる既設鋼管の安定性の確保や、年間を通じて用水供給があるため施工期間に限られるという、2つが大きな課題となっています。

現場代理人の水井所長を始めスタッフ一同の協力体制の下、事前に既設鋼管の構造安定性の評価を行うための試験片による引張試験や解析等を行い、その結果を反映した施工計画と既設鋼管の挙動監視体制の確保により、ほぼ計画どおり施工が進められている状況です。厳しい工程の中、年末の完成を目指し、安全で高品質な施工となることを期待しています。

### 監督職員

(写真左) 北陸農政局手取川流域農業水利事業所

工事課長 山田 治

### 現場代理人

(写真右) 東急建設株式会社

手取川作業所 水井 隆之

